

ヨハネの福音書 第7章 38節

「わたしを信じる者は、聖書が言っているとおりに、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになる。」

早朝からどこからともなく水の流れる音が聞こえている。いつものことであるが、季節によって音の響きが異なっている。春ののどけさからは穏やかな響きが奏でられる。夏の暑さの中では勢いよく響くような水の音色だ。そして、紅葉の秋には少し遠くまで届くような澄んだ音となる。厳寒の冬の音はこれからの楽しみだ。ここは都会に属する住宅街であるが、水の流れが聞こえてくるのは少し不思議な気分だ。

流れる水は野山ばかりか、人の住むところどこでも必要不可欠である。水無くして生活が成り立たない。生活用水、いのちの水、恵みの梅雨、農業用水、水に関わる言葉は多い。誕生から地上を去る時まで身近な水である。その時々の水の音を聞くことが出来るのは幸いなことである。戦禍のなか、水、水と叫びながら命を落とした数多くの者たちがいた。時の終わりに渴きを覚え、そのまま命果てた者たちがいる。

いついかなる状況におかれても注がれる天水、御霊なる生ける水が渴く者の内から川のように流れ、溢れる約束がある。渴いた者はここに、と招かれている。招きを信じる者の心の奥底から水の音。

2022年11月4日